

音たてぬ

昔より

今もなほ

朝露に

夕月に

垣のうの花。

波とかけつゝ

めでし卵の花

めづる卵の花

色はかゝやき

光にはへり

首 夏

去にし日に見し

いつしかかはる

花にはつらき

いとゝ待たるゝ

小川のながれ

暑からぬ程の

はらから二人

目だかすくふも

夏 く さ

花さかり

若みどり

風をしも

夏は來ぬ

ゆるやかに

日はさして

衣かゝけ

おもしろく

若葉のかけに

遊びにくらす

螢

庭の木たちに

露の光と

暗を照らして

いつ地の露に

我庭ちかく

暗を照らして

學びの窓に

いざや學ばん

初夏風

みどり涼しき

青葉をわたる

ひとりたもとを

行きかひて

夏は來ぬ

夏 く さ

只ひとつ

見えつるは

飛ぶはたる

あきてけん

こがれきて

飛ぶはたる

よび入れて

文のみち

加藤ひな子

夏木立

ゆふ風に

吹かせつゝ

我をわすれて

たゝずめり」

われはいとひぬ

花のため

けにも恐れぬ

鳥のため

されど夏たつ

今日よりは

そのゆゑ風の

したはしき」

夜 路

小林つね

一、暗き山路にふみまよひ

便らむ路をたづねつゝ、

木かけ出ればあなうれし

燈火つゞく町の軒

二、なれぬ旅路にさまよひて

たよらむ方も白雲の

空飛ぶ星に誘はれて

はつかに見ゆる人の家

金剛石

なでしこ

萬物中最も高價なるものはなにぞ、と同は、われは金剛石と答へん。萬物中最も堅硬なるものは、と問は、われは金剛石と答へん。

この貴き金剛石は、初はいかなる處にあるか、といふに、あるは晶形をなし、あるは顆粒状をなして、鑽石又は稜巒石中に産し、又川底の砂礫の中にまじりて存す。さて、産地にて古來有名なるは、東印度、ボルネオ、ブラジルなどなり。

金剛石は、初よりうるはしき光をはなてるか。

いな、金剛砂もてみがきて後は、じめて光を放ち、寶石としての價を増すものなり。金剛石のたふとまるゝは、實に其光線反射の著しきと、光彩の美なるとよるといふ。其色は、無色透明のもの最